

令和8年度 研究計画の概要

嬉野市立吉田中学校

1 研究主題名

「基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けた生徒の育成」
～9か年継続した吉田メソッドを通して～

2 研究主題設定の趣旨

本校は全校生徒31人（小中連携している吉田小学校は全校児童59人）からなる全学年単学級の小規模校である。そのため、就学前を含めほぼ同じ集団での生活を続けている。生徒は素直であり、与えられた課題には取り組むことができる。しかし、固定的な人間関係の中で育ってきていることで、大勢の集団の中でもまれる経験が少なく、全体場で自分を表現することが苦手といった面がある。また、いつもと異なる場面や学校外の方々との関係作りにも苦手意識をもっている傾向もあり、自信をもって自分の意見を述べたり、自分たちで考え行動したりする主体性や、積極的に他者と関わろうとする態度が十分に育っているとはいえない。さらに、学級内での人間関係についても、問題を引きずる傾向があり、協働的な活動や学びに影響が出ている場面も見受けられる。

喫緊の課題としては、高校入学後の大人数の集団に適応できなくなる高1ギャップを不安に思う保護者、生徒が近隣の中規模校に入学させる傾向があり、本中学校の少人数化に拍車がかかっていることがあげられる。このような憂慮すべき状態を解消するためにも、「ろく・さんプラン」を柱とした小中一貫教育のメリットを保護者や地域の人々に広く周知する努力をしていかなければならない。

令和3年1月の中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構想を目指して」では、我々が目指すべき指導の方法が具体的に示された。これには、これまで学校が行ってきた教育をバージョンアップして、全ての子供たちにこれからの不透明な社会を生き抜くだけでなく、未来を創造していく力を身につけさせたいとの願いがあふれている。そのために我々教師は、学習の主体が子供たち自身であるということを再認識し、子供たちが自ら問いを立て、解決方法を探り、いろいろな人と協力しながら課題を解決していける力を身につけていけるように、子供たちが主体的に学べる環境を整え、必要な支援をしていかなければならない。

これまでの研究では、小中一貫した指導を通して、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問題を見出して解決策を考えたりする「主体的・対話的で深い学び」へとつなげるための取組を行ってきた。具体的には、授業スタイルの標準化（「吉田メソッド」）を図り、学んだことを活用する力や、考えを伝え合い深く学ぶことができる力の育成を目指して実践を行ってきた。しかし、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスの取れた教育の実現には至っておらず、基礎的・基本的な知識・技能や学習の基盤となる資質・能力等の育成が大きな課題であると考ええる。

学力向上の土台となるものは、学級内の人間関係や学ぶ環境である。学級内の人間関係が固定化された状態や、崩れている状態では、協働的な学びにはつながらない。そこで今年度は、課題とする学力向上に向けて、小学校は歯と口の健康指導を、中学校は学力向上の基盤となる学級づくり（学級経営）と授業力向上に焦点を当て、学級づくりや授業づくりに取り組む。全ての生徒にとって生活しやすい学級づくりや、分かりやすい授業づくりを通して、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けた生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

3 研究内容

(1) 研究目標

小学校は歯と口の健康指導を、中学校は学力向上の基盤となる学級づくり（学級経営）と授業力向上に焦点を当て、学級づくりや授業づくりを通して、安全・安心な学校、学級、授業づくりに取り組み、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒を育成するための指導・支援・準備等の在り方を探る。

(2) 研究の手立て

- ①吉田メソッドによる授業推進。
- ②吉田メソッド改訂版の作成。
 - ・実態把握と課題整理（学習意識、学習の流れ、学習規律）
 - ・新学習指導要領の内容理解
- ③9か年を意識した家庭学習習慣モデル案作成。
 - ・家庭学習の実態把握と課題整理
- ④小中学校職員の情報交換、情報共有の時間を多く設定し、課題の共通理解を図っていく。

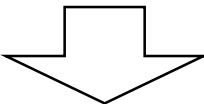
(3) 研究の取組

- | | |
|------------|---|
| 全体会 | <ul style="list-style-type: none">・小中一貫した吉田メソッドについての研修・基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるための取組の研修・研究・学級経営や安全・安心な人間関係づくりなどの研修・小中学校職員の情報交換や情報共有、共通理解を図る取組 |
|------------|---|

『ろく・さんプラン』にかかる小中連携した校内研究部会組織の方向性

部会A 学力の向上 【小】杉原・徳永・志方・小崎 【中】諸富・宮崎・土橋	部会B こころの教育 【小】岡・山口・原田・池田・秀野 【中】古賀・永田・山口	部会C 健康・体づくり 【小】椎葉・倉崎・加賀 【中】小田・力田・於保・迎
--	---	---

※部会の中でグループ（3、4人）を作る。



学力向上の土台となる 学級経営、安全・安心な人間関係づくり、授業づくり
--

(4) その他の取組

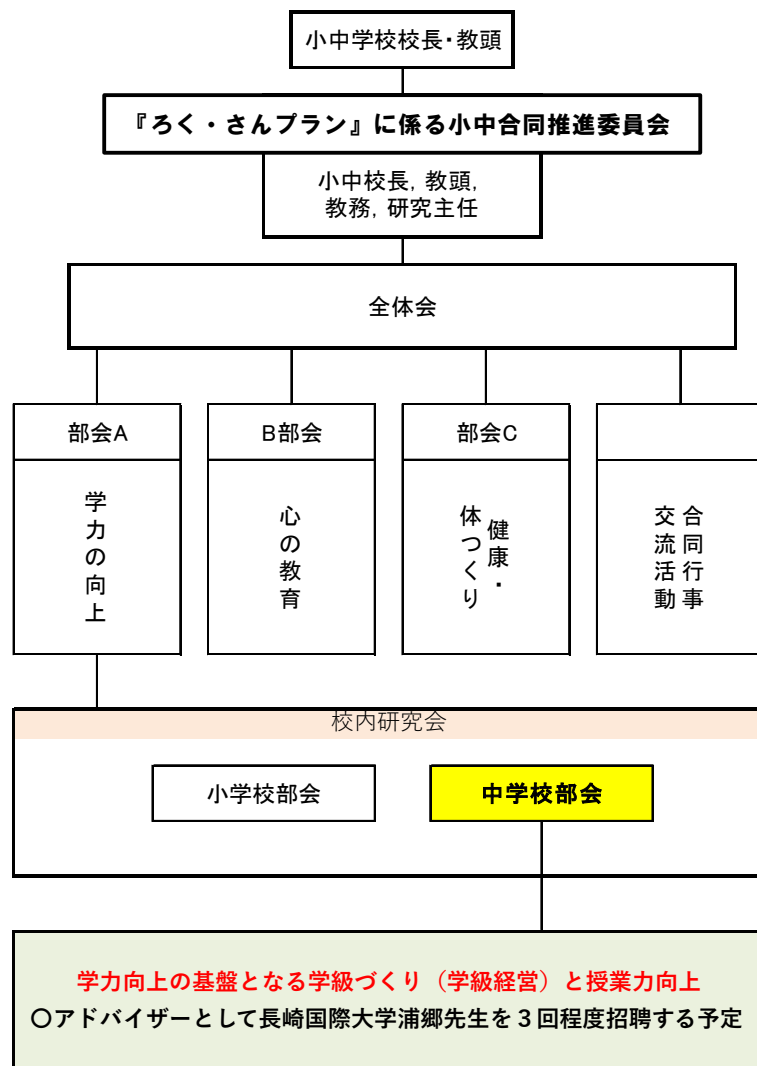
- ① 合同体育大会の開催
- ② クリーン大作戦、フラワー大作戦の実施
- ③ ブロック集会の実施
- ④ 交流活動の実施（特別支援学級、小4音楽、小6体験入学）

4 期待される成果

学級経営や安全・安心な人間関係づくりに焦点を当てた研修・研究・実践を通して、

- (1) 全ての児童生徒にとって、分かりやすい授業
- (2) 基礎的・基本的な学習内容の確実な習得
- (3) 誰とでも友好的人間関係を築くことができる人間関係力の向上
- (4) 全ての児童生徒にとって、安全・安心で生活しやすい学校、学級、環境

5 研究組織図



6 吉田メソッドについて（冊子「吉田メソッド」から抜粋）

(1) 「吉田メソッド」とは

『西部型授業』の基本的な流れをもとに、小中での授業の学習過程を統一し、児童生徒の学習の流れを標準化したもの。

- ★『西部型授業』の基本的な流れは、
「つかむ」「見通す」「考える」「考え合う」「ふり返る」
- ★「吉田メソッド」の基本的な流れは、
「つかむ」「見通す」「考える」「伝え合う」「ふり返る」

(2) 「吉田メソッド」での授業づくりのポイント

- ア 「つかむ」「見通す」過程・・・課題設定の工夫
- イ 「考える」「伝え合う」過程・・・思考の流れの可視化
- ウ 「ふり返る」過程・・・・・・・・・・ 学習を客観的に見つめなおす
- エ 学習過程の可視化